# わくわく国際交流

深川国際交流協会　広報誌　Vol.20　2008.2
http://fukakoku.net/

⬆ 深川国際交流協会総会

⬆ インターナショナルデー 外国人紹介

⬆ インターナショナルデー MATCH THE FLAG ゲーム

⬆ 青少年カナダ交流訪問団壮行会

⬆ 青少年カナダ交流訪問団 ブッチャートガーデン

⬆ 青少年カナダ交流訪問団 アボツフォード市役所訪問

## 節目を迎えた国際交流

深川国際交流協会　会長　小瀧　　聰

2007 年は深川国際交流協会が発足して 10 年の節目、そして本年はアボツフォードとの姉妹都市提携 10 年目となる記念すべき年となります。

現在、北海道内では 24 の自治体がカナダの市町と姉妹提携を結んでおり、その提携数はアメリカをしのいで第１位です。しかも、毎年１度、北海道・カナダ姉妹都市会議を開催し、関係者が交流の経験を意見交換しているのも大変珍しいことです。

ただ、近年、各自治体・交流団体から出される報告に変化が見られることも事実です。その第１は、いずれの自治体も財政難からかつてのような潤沢な資金を確保することが難しく、活動に支障がでてきていることです。第２は、活動団体の会員が固定化し、その分毎年会員の平均年齢が上昇し、なかなか、若い人を活動の輪に加えることができない状況となってきていることです。

こうしたことから、国際交流を進めている人たちの間にある種の閉塞感があることも事実でしょう。しかし、ここでもう１度、私たちが国際交流を通して学んだこと、そして「成果」として成し遂げたことを見つめなおすことが必要だと思います。

カナダ人の自分の主張を堂々と述べる姿勢、明るさ、楽天性、日本社会よりは明らかに進んでいる男女平等など、深川から派遣された中学生・高校生の若い感性に刺激を与えたことは間違いありません。そのことが、一昨年開催された「青少年カナダ交流訪問団同窓会」の参加人数、彼らのその後の成長を語る報告会に見事に表れていたと思います。

お金をかけなくてもできる有意義な姉妹都市交流はたくさんあります。ある町では、小学生同士が絵画作品を交換しております。もちろん多くの方がホストファミリーとメールのやり取りを行っています。今の時代、深川の子どもたちが英語でメールを送り、カナダの子どもたちが日本語で返信するなんてことは、お金をかけないでいつでもはじめることができる交流です。

また、会員数を増やすこともなかなか進んではおりませんが、それこそカナダ人の習慣に学び、協会が主催するイベントだけではなく、市内の団体が開催する各種行事に家族を同伴する、これは、国際社会ではあたりまえのことです。深川でも、この協会の会員が率先してはじめてはいかがでしょう。

最後となりますが、地元の拓大道短大では留学生を受け入れ始めました。多くはアジアからの学生です。昨年 12 月８日に彼らを招いてパネルディスカッションを行いました。これも楽しい異文化交流でした。私たちも東洋の異文化を知る良い機会であったと思います。彼らにとっても、日本人社会の良さを学ぶ機会でした。この学生たちが深川の市民との交流機会が増えることを期待し、当協会の会員が今までとはちょっと違う一歩を踏み出すことを願っております。

## 深川国際交流協会総会開催

４月 24 日（火）、プラザホテル板倉にて、深川国際交流協会総会を開催いたしました。

議事内容は、2006 年度の事業報告及び決算報告、2006 年度の監査報告、2007 年度の事業計画（案）及び予算（案）、役員の改選についてでした。特に今回の総会では、大幅な役員改選が行われました。

2007・2008 年度の深川国際交流協会の役員は、下記のとおりとなりましたので紹介いたします。

◆ 2007・2008 年度　深川国際交流協会役員 ◆

| 役　職 | 氏　名 | 役　職 | 氏　名 |
|---|---|---|---|
| 顧　問 | 芳賀昭雄 | 理　事 | 北本清貴 |
| 会　長 | 小瀧　聰 | 理　事 | 高田真知子 |
| 副会長 | 宇野富美子 | 理　事 | 藤岡順子 |
| 副会長 | 広野勝利 | 理　事 | 梅澤龍成 |
| 理事長 | 谷口保幸 | 理　事 | 淀野順子 |
| 副理事長 | 宮田嘉明 | 理　事 | 三谷直美 |
| 副理事長 | 板倉明子 | 理　事 | 横田育子 |
| 理　事 | 池田敏江 | 理　事 | 岡　隆史 |
| 理　事 | 中川良平 | 理　事 | 関　晶子 |
| 理　事 | 笹口和子 | 事務局長 | 渡辺　優 |
| 理　事 | 土門裕之 | 事務局次長 | 瀬川　慎 |
| 理　事 | 轡田淑子 | 監　事 | 齋藤　雅 |
| 理　事 | 松田俊雄 | 監　事 | 児島俊一 |
| 理　事 | 上垣由紀子 | 役員合計 | 27 名 |

# インターナショナルデーをふりかえって

深川国際交流協会　国際理解部会　梶川　いく代

６月 15 日（金）、プラザホテル板倉にて、国際ソロプチミスト深川と深川国際交流協会の共催による「インターナショナルデー」が開催されました。

今回はゲストにＡＥＴ５名、今春拓大に入学された中国人留学生 12 名とモンゴル人留学生１名を迎え、にぎやかな開催となりました。

まずは、定番のＡＥＴによる「日本不思議あてクイズ」からはじまり、ＡＥＴそれぞれが日本で不思議に思った体験についてオーバーアクションを交え披露していただき、参加者の生徒に答えてもらいました。このクイズを見ていて感じることは、年々参加する生徒の理解能力がレベルアップしているということです。

次に、中国人留学生による「漢字で感じて」ゲームを行いました。ソロプチミストでは、日本語の会話の経験が少ない中国人留学生に少しでも手助けができればという思いで昨年の５月から週２回、日本語講座を開き交流してきました。当初、身体を使ったゲームをと考えましたが、まだ留学生の日本語が十分でないということで日中共通の文化「漢字」に着目し、同じ漢字でも例えば「手紙」は中国ではトイレットペーパー、「愛人」は中国では妻を意味するように、両国で全く意味が違う漢字を集め中国に親しんでいただこうというゲームを企画しました。漢字一つとっても、国が違うとこれだけ違うという面白さを実感しました。

３番目に「カナダ組」と称し、過去に青少年カナダ交流訪問団として参加した中学生による伝言ゲーム「伝言でゴン」が行われ、ゲストと参加者がグループに分かれ速さと正確さを競い合いました。この頃には国籍を超え、参加者全員がすっかり打ち解けた雰囲気に包まれたようでした。

コーヒーブレイクをはさみ、先のカナダ組先導によるダンスタイムでは「めちゃステップ」を踊りました。留学生全員もステージに上がり会場が一つとなり、大いに盛り上がり閉会となりました。

青少年カナダ交流訪問団には、これからもこのような形で「インターナショナルデー」に企画・参加していただきたいと希望するところです。

後日、留学生にインターナショナルデーの感想を聞いたところ、どのゲームもおもしろく、特にＡＥＴや参加者と交流ができて楽しかった、お寿司もはじめて食べたけれどおいしかったという言葉を聞き、主催者側としてホッとしたところです。ただ一つ残念だったのは、ステージに掲げられた横断幕に中国の国旗の絵がなく寂しかったという指摘をいただき、早速追加修正をしたところです。

# 深川国際交流協会親睦の集い開催

７月 23 日（月）、プラザホテル板倉にて、深川国際交流協会の会員交流・会員拡大を目的に「深川国際交流協会 親睦の集い」を開催いたしました。

会場には、1997 年度からの深川国際交流協会の活動（青少年カナダ交流訪問団派遣事業やインターナショナルデーなど）を年度別にパネルを展示し、参加者に深川国際交流協会の活動を周知いたしました。

また、抽選会では、広野スポーツ様より「ゴルフ用ハット」が５本、プラザホテル板倉様より「マザーズカントリー御食事券」が５本、谷口ファーム様より「生バラ」が３本・「お風呂用バラ」が３本、松田ファーム様より「新米 10 ㎏引換券」が５本、㈱能登家具店様より「クッション」が５本、ＪＡきたそらち様より「さくらんぼ 佐藤錦 250g」が 16 本の計４２本の提供品をご協力いただきました。提供品を含め、総額 16 万円相当、175 本の景品を用意いたしました。総額 16 万円相当の景品を前に、パーティーに参加した約 180 名の参加者は大変な盛り上がりをみせ、親睦を深めていました。

17:30　受　付
18:00　開　会
　　司会：深川国際交流協会　松田会員交流部会長
　　会長挨拶：深川国際交流協会　小瀧会長
18:05　乾杯：深川市長　山下　貴史　氏
18:30　抽選会
19:25　理事長挨拶：深川国際交流協会　谷口理事長
19:30　閉　会

# 2007 青少年カナダ交流訪問団報告

2007 年７月 25 日から８月９日の行程で青少年海外派遣事業(青少年カナダ交流訪問団派遣)を実施いたしました。

## ★日程・メンバー紹介★

| 月日 | 主な研修・活動内容 |
|---|---|
| 7.25 | ▪ 出発～バンクーバー国際空港へ |
| 7.26 | ▪ 英語の授業、カナダドルの授業 |
| 7.27 | ▪ ブッチャートガーデン見学 |
| 7.27 | ▪ ヴィクトリア市内見学 |
| 7.28 | ▪ ホストファミリーと過ごす |
| 7.29 | ▪ ホストファミリーと過ごす |
| 7.30 | ▪ 英語の授業、ホワイトロックビーチ見学 |
| 7.31 | ▪ 英語の授業、アボツフォード市役所訪問 |
| 8.1 | ▪ 英語の授業、カルタス湖見学 |
| 8.2 | ▪ 英語の授業、アグリフェア見学 |
| 8.3 | ▪ グランヴィルアイランド、ロブソンストリート、スタンレーパーク散策 |
| 8.3 | |
| 8.4 | ▪ ホストファミリーと過ごす |
| 8.5 | ▪ ホストファミリーと過ごす |
| 8.6 | ▪ ホストファミリーと過ごす |
| 8.7 | ▪ 英語の授業、お別れパーティー |
| 8.8 | ▪ バンクーバー国際空港出発 |
| 8.9 | ▪ 帰国～深川へ |

**篠原　桃子**
（リーダー）
深川中学校３年

**新井田　大輔**
（サブリーダー）
一已中学校３年

**川井　里保**
音江中学校２年

**杉本　康旗**
一已中学校２年

**村田　拓也**
深川中学校１年

**川原　みゆき**
（団長・引率）
深川国際交流協会
会員

## Enjoy any time！ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 篠原　桃子（深川中学校３年）

カナダでの２週間は、本当に本当に楽しかったです！自分が受験生だということ、リーダーになってしまったことなど、カナダに行く前は不安でいっぱいでした。だけど今は、カナダに行って良かったと思います。

カナダでの体験は、どれもこれも日本では出来ないようなことばかりで、本当に貴重な経験になりました。ホストファザーが牧師だったこともあり、宗教の違いにも驚かされました。食べ物、家、学校も国が違うとこんなに違うんだなと思いました。

私がカナダで一番楽しかったことは、観光でも買い物でもなく英語の授業でした。「副詞 30 個書いてきて♪」こんな宿題は私には難しかったのですが、昨日のことについて書いたり、毎日新しい単語を覚えたり、とても勉強になりました。Mr.J はとてもおもしろく良い人で、バスの中で教えてもらった、カナダのジョーク「slangs」は特に好きです。辛かったことは時差ボケです。夜になっても眠れず勉強したり、日記を書いたり、そんな日が何日も続き、やっと時差ボケが無くなったのは最終日でした（泣）心配させてしまってすみませんでした。

忙しい中でも気を使い世話をしてくれたホストファザーの Klaus、ホストマザーの Lynne、年が近くいろいろな話で盛り上がったり、宿題も手伝ってくれたホストシスターの Laura、Laura の友だちの Daniell、休日に観光に連れて行ってくれたホストシスターの Keka、Keka の友だちの Maranda、私の家にホームステイしていて、５年ぶりの再会をはたすため連絡までとってくれた Natty、本当にありがとうございました。Mr.J の授業は本当におもしろかったです。ありがとうございました。相談ごとやいろいろな話でとても盛りあがったみゆき先生、同じ３年生でよくアホな話をした大輔、一緒に買い物したり悩みを聞いてくれた里保、UNO の相手をしてくれた康旗、私なんかよりずっとしっかりしていた拓也。みんなと一緒で良かったです。ありがとうございました。

また、絶対カナダに行きたいです！というか行きます。

I LOVE CANADA！

## Thank you for everything ＿＿＿＿＿＿＿＿ 新井田　大輔（一已中学校３年）

僕はこの研修に行くことができて良かった。この一つしか思いません。緊張しながら姉妹都市・アボツフォードで過ごした 16 日間は、一瞬のように早かったものの全てが良い経験で良い思い出となりました。環境・文化を学び、カナダの風土を日々見つけることができました。

最初はリスニング・スピーキング共に自信がなかったものの、毎日 Mr.J やさまざまな人とコミュニケーションをとったり、テレビを見ているうちに話す・表現する力も聞く力も上がっていき、英語力をより一層深めることができました。全員がホームシックになることもなく一安心です（笑）

ウォータースライダーやバンクー

バー、ヴィクトリアでの観光など、全てがとても良いものでした。アグリフェアで見たロデオや花火もとても楽しく盛り上がりました。しかし、途中で３年生の年寄り組は疲れた場面も多々あったものの、１・２年生は元気バリバリ･･･ジェネレーションギャップを感じました（笑）

最後に、家族や祖父母の理解、深川国際交流協会の方々の支えがあっての研修でした。ありがとうでは足りないくらいですが、ありがとうと言いたいです。常に笑って励ましてくれた川原先生、リーダーで一緒にバカ話したもも、２年生なのにしっかりしていた里保、同じ学校でクール？な康旗、１年生で最年少の拓也、このメンバーで研修に行くことができてうれしかったです！ありがとうございました！！

～ I Love Canada, and I want to go back there again！～

## カナダから帰ってきて　川井　里保（音江中学校２年）

今回、青少年カナダ交流訪問団としてカナダに行かせてもらった２週間、私は今までにないくらい楽しい時間を過ごすことができました。カナダにいた間は“一日”がすぐに終わってしまうように感じるほど楽しく、夢のような毎日でした。

カナダに行っていた間の平日は、学校へ行って勉強したり、みんなで観光して買い物をしたりなどすごく楽しかったです。アボツフォードはもちろん楽しかったけれど、特にヴィクトリアとバンクーバーは最高で、深川とは違うところをたくさん見ることができた気がします。

休日はホストファミリーと一緒に過ごしました。私のホストファミリーは聞き取りにくい私の英語を一生懸命聞いてくれる優しい人たちで、休日は結構いろいろな所に連れていってくれました。年の近いホストシスターとは気が合って、プールに泳ぎに行ったり、パソコンをしたり、一緒に日本語の歌を歌ったりもしました。

２週間はとても短かったけれど、学んだことも多いし、思い出もいっぱいできました。いつになるかはわからないけれど、もっと英語が話せるようになったら、またカナダに行きたいです。

“Enjoy anytime !!”

## カナダでの２週間　杉本　康旗（一已中学校２年）

このカナダでのホームステイの２週間はとても楽しく、とても勉強になりました。青少年カナダ交流訪問団の申し込みをした時、本当はあまり行く気はなくてほとんど強制的に申し込まされました。行く気がなかった理由は、カナダで会話ができるか、知らない人の家で２週間も生活できるかなど、いろいろ心配だったからです。

でも、実際にカナダに行ってみると今までの心配はすっかり無くなっていました。最初はあまり会話が続かなかったけれど、日が経つにつれて徐々に耳も英語に慣れてきて会話がけっこう続くようになりました。生活でも、カナダの人はとても親切で、やさしく接してくれました。

カナダに行って人の違いや家の違い、食べ物の違いなどいろいろと日本とは違うものを見つけました。人はとても親切で友好的で陽気でした。驚いたのはデパートなどで、日本では「いらっしゃいませ」などしか言わないのに、カナダでは普通に店員と知り合いの人としゃべっているように話していてびっくりしました。

家や庭はとても広かったです。部屋は広いし、リビングなども広いし、僕がホームステイした家にはトイレとバスルームが３ヶ所もあり、とてもびっくりしました。庭にはトランポリンがありました。トランポリンはとても楽しかったです。

食べ物は味がすごく濃かったり、薄かったりしてあまりおいしくありませんでした。お菓子はすごく甘すぎたり、色が蛍光色のようにとても明るい色で舌が変な色になりました。僕は日本のお菓子の方が好きです。

このようにカナダへ行かなかったらわからなかったことが、この２週間のホームステイでわかりました。日本の良いところ、カナダに限らず外国の良いところを取り入れていきたいと思います。

カナダでの２週間のホームステイはとても良い経験となり、とても良い思い出となりました。

## カナダに行って　村田　拓也（深川中学校１年）

僕はこの研修で、たくさんのものを得ました。海外へ行くのは三度目で、あまり不安というものはありませんでした。でも、一人でホームステイすることは初めてだったので、ホームステイにはかなり不安はありました。

ホストファミリーは優しい感じの人で「いろいろな所へ行けるかも！」と思っていましたが、現実はそう簡単にいくものではありませんでした。朝食は毎日同じもの、昼食は自分で手作りしました。どこかに行けると思えばホストファミリーの趣味の映画鑑賞。しまいにはショッピングに行くと言ったにも関わらず、僕一人を置き去りに･･･（笑）という感じで憂鬱な時もあったのですが、楽しい事もたくさんありました。ヴィクトリアに行ったり、バンクーバーに行ったり、放課後に遊んだり、特にみんなと一緒にいる時が一番楽しかったです。

ホームステイ中、一番驚いたのが家にテレビのアンテナがついていませんでした！せっかく２週間もホームステイをしたのに、英語が全く身

に付きませんでした（笑）
　この研修は、ものすごく良い研修だと思うので、友だちにもぜひ行ってもらいたいです。あと、１年生の僕でも２週間カナダで無事に過ごせたので、かなり自信がつきました。
　この研修を企画してくれたみなさん、本当にありがとうございました。

## 引率者からの言葉＿＿＿＿＿＿＿＿ 深川国際交流協会　会員　川原　みゆき（団長）

　長旅の疲れに若干の時差ボケ、そしてこれから何が起こるのだろうという期待と不安を胸に足を踏み入れた英語の授業初日。私を含め６人全員の顔が多少なりとも強張っていたことを今でもよく覚えています。そんな私たちにMr.J（英語の先生）が投げかけてくれた言葉、それは“Hakuna Matata！(スワヒリ語でNo Worries！／心配しないで！の意味）”でした。それからの 16 日間、何か困難なことや新しいことにチャレンジするとき、“Hakuna Matata！”は私たちの合言葉となり、その言葉の不思議な力を借りて一人ひとりが数々の壁を乗り越えることができました。
　この16日間を振り返ってみると、この“Hakuna Matata！”という言葉とともに、そこにはいつも素晴らしい「出会い」に恵まれていました。まずは、到着してすぐバンクーバーの空港で出迎えてくれたコーディネーターの Elizabeth。彼女の笑顔に長旅の疲れも入国審査時のイライラも吹き飛び、すっかり癒されました。アボツフォードに向かうバスの中でも常にみんなのことを気遣ってくれ、カナダ到着後すぐにカナディアンの温かさに触れることができました。
　つぎにホストファミリーとの「出会い」。初めての顔合わせの時のドキドキは未だに忘れられません。初日から言葉の壁や文化の違いにぶつかり、一緒に生活する中でとまどったことも多々あったかと思いますが、フェラウェルパーティーでホストファミリーと一緒にいるみんなの顔を見たとき、本当の家族といるようにリラックスしている様子を見て「２週間でずいぶん成長したなぁ」とたくましくなったみんなを誇りに思いました。
　そして、私たちグループと一番かかわりの深かったMr.J。彼との「出会い」の中では、『英語』という言語だけでなく『人として』多くのことを学んだのではないかと思います。Mr.J が私たちのためにしてくれたさまざまなことは、ここでは書ききれないほどです。とても印象的だったのは、バンクーバーへ出発する前の朝、私たちのために 60Km 離れた自宅からミキサーと材料を持参してスムージーを作ってくれたこと。あの味は忘れられません！そして、アグリフェアでは人数調整のために大大大嫌いな Zipper という名の乗り物にも乗ってくれました。私たちのカナダでの滞在が少しでも楽しくなるように、いつも心から気遣ってくれ助けになってくれたおかげで、私たちはカナダで最高の思い出を作ることができました。
　そして何よりも一番の「出会い」は、この研修を共にした５人の仲間たちです。向学心が旺盛で抜群の英語センスを持つリーダーMomo。Momoの積極性には私も触発されました。絶対に夢を実現させてくださいね！応援しています！
　とても素直で順応性の高いサブリーダーDaisuke。Daisuke のあの笑顔と柔軟性があればどんな国でも充分やっていけます。いつまでもその思いやりの気持ちと笑顔を忘れずに！
　シャイだけど実はひょうきんなKoki。奥に秘めたものをカナダで爆発させたのでは？ホストブラザーのBrett と築いた絆を大切にしてくださいね！
　芸術肌で皆と違った視点を持っているRiho。英語の発音のきれいさはピカイチです。今回の研修で得た経験と自信を胸にこれからもさらに世界へ羽ばたいてほしいです！
　そして常に冷静沈着な Takuya。本当に１年生？と疑いたくなるほど英語力も高く、落ち着いて外国人の人たちと接していましたね。これからもさまざまなファインダーを通して日本と世界を見続けてください。
　みんながどんなことにでも積極的に Try する姿、どんなときでも協力し合って助け合う姿には、私だけでなく周りにいた多くの人たちが感心していましたし、みんなのことを褒められるたびに鼻が高かったです。私はこの５人が日に日に勇敢に、そして頼もしく成長していく過程を一番そばで見ることができたことを、いつも幸せに感じていました。そして今回、この素敵な５人の仲間たちと一緒にカナダで研修ができたこと、多くの時間と思い出を共有できたことを本当にうれしく思っています。みんなと過ごした思い出とみんなからの手紙＆プレゼントはこれからもずっと私の宝物です。本当にどうもありがとう！
　約２週間という短い期間の中で私たちは多くの人たちに出会い、多くのものを目にし、多くのことを体験しました。さまざまな人たちと触れ合う中で、今までとは違った視点から日本を、そしてカナダという国を見つめることができたのではないかと思います。こうした多くの「出会い」を通じて学んだこと、感じたことは一生忘れることのない素晴らしい経験になったに違いありません。ちょっと躊躇したくなるようなときはいつでも、“Hakuna Matata！”という言葉に背中を押され、そして一歩踏み出すとそこにはいつも温かな笑顔を浮かべたカナダ人たちが待っていてくれていましたね。そしてそんなカナダ人から教わったこと、それは「異なるバックグラウンドや異なる文化・習慣を受け入れ、それを理解しようとする大きな心を持つことが異文化交流する上で最も大切なことだ」ということです。「心は言語をも超える」のかもしれません。これからこの５人はさらに世界へ羽ばたいていくことと思います。新たなチャレンジや困難なことに立ち向かうときはあの合言葉を、そして他国の人たちとコミュニケーションをはかるときはカナダの人たちがそうしてくれたように、大きな心を持って接することを忘れずにいてほしいと思います。
　最後に、私たちにこのような素晴らしい機会と出会いを与えてくださった深川市の皆様、深川国際交流協会の皆様、またこの事業に携わった全ての方々にこの場を借りてお礼と感謝の気持ちを申し上げたいと思います。今後もこのような事業を通じて、アボツフォードと深川市の距離がますます近づきますよう心より願っております。

# 高校生の交換留学生制度について

平成 10 年9月 14 日に姉妹都市提携した、カナダ・アボツフォード市と深川市では、平成 14 年度から高校生の交換留学を実施しています。４回目の実施となる今回は、平成 19 年 11 月1日～12 月 15 日までの 45 日間、深川市から２名の高校生（佐藤 隆文くん、納村 憲明くん）をアボツフォード市へ派遣いたしました。

## カナダ交流報告 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 佐藤　隆文（深川東高等学校２年）

私は、深川市の姉妹都市であるカナダ・アボツフォード市との交換留学生として、平成19年11月１日より45日間、アボツフォード市に滞在させていただきました。この留学で私は色々なことを感じ、考えてきました。

アボツフォード市の人口は深川市の２倍以上ありますが、自然の風景は木がとても高いことを除けば深川市とあまり変わりませんでした。ただ、どこか外国の雰囲気があり、私にとってはとても新鮮に映りました。

留学先の学校は、ロバート・ベイトマン・セカンダリー・スクールです。ここで私は、日本語クラスと料理クラス、そして英語クラスの勉強をしました。この学校は、中国やインドのアジア圏やスペインなどのヨーロッパ圏などからの留学生が多く、多くの人たちが勉強していました。宗教上の理由から常にターバンを巻いている留学生もいて、日本と外国の違いを改めて感じました。

英語クラスは、ほとんどの国の第二言語が英語であるためにとてもレベルが高く、英語を聞きとることも私はよくわからない状態でした。

日本語クラスは、日本の英語の授業内容を例にすると英語と日本語を逆にしたような感じで、最初のうちは何か不思議に感じました。

料理クラスは、常に英語で話されプリント類もすべてが英語で書かれていたので、説明もよくわからない状態でした。そのため、日本語クラスを取っている同じチームの人たちにほとんど手伝ってもらい、とても後ろめたさを感じました。

最初のうちは英語の会話が全くわからず、相手に身振り手振りで教えてもらっていましたが、日が経つとそれなりに英語が聞きとれるようになり簡単な会話なら相手が何を言いたいかがおぼろげにわかるようになりました。しかし、私の知らない単語が出てきたり、知っている単語でもイントネーションや発音の違いで全く違う単語に聞こえたりと、大変なことも多くありました。会話をしているときに相手の言っていることがわからなかったり、自分の言いたいことが伝えられなかったりすると、相手に対する申し訳ない気持ちと言葉の壁の厚さを再確認させられました。

今回の留学で、日本にいてはわからない貴重な体験が出来ました。これらの学んだ多くのことを進路などに生かしていきたいと思います。これからも深川市とアボツフォード市の交流に参加し、より多くの文化や言葉を学んでいきたいと考えています。最後に留学という貴重な体験をさせていただいたことに感謝しています。

## カナダ留学帰国報告 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 納村　憲明（深川東高等学校２年）

私は、今回の留学で１カ月半という長いようで短い期間、カナダ・アボツフォード市に行き、色々なものを見て、食べて生活をしてきました。

私がお世話になったのは、トード・ヘンドリックソンさんのお宅でした。家族はトードさん、妻のシェリーさん、私より２歳下で学校や家でとてもお世話になったテーラー君、テーラー君の弟のアレック君、妹のアーリーちゃんの５人家族です。家は広く、庭もとても広かったので掃除が大変でした。食事は、朝はパンやコーンフレーク、昼は食べなかったりサンドイッチ、夜はステーキなどの豪華な料理を食べることが多かったです。

学校は、ロバート・ベイトマン・セカンダリー・スクールに通っていました。授業はすべてではありませんがほんどが英語だったので最初の１・２週間は話を聞いて理解するのだけでも大変でした。そのため、日本語クラスの先生のロドニー・フォークナーさんにとてもお世話になりました。学校で特に仲良くなった友だちは、台湾人のイャン・ミャンさんとジャン・ミャン君の姉弟です。昼ごはんを一緒に食べたり、放課後に教室で話をしたりしていました。

カナダでの一番の思い出は、トードさん、テーラー君、同じく深川市からの留学生の佐藤君と私で 2010 年バンクーバーオリンピックが開催されるウィスラーでスキーをしてきたことです。まだオープンしたばかりなのと、日本との気候が違うためか最初は滑りにくかったです。しかし、慣れてくると日本よりもスキーのスピードが出ているような気がしました。怪我をすることもなくスキーを楽しむことができました。

逆に一番辛かったことは、言葉が通じないことや相手が言いたいことがわからないことです。伝えたいけど伝わらない、理解できずに「ソーリー」と言うのがとても辛くて悔しかったです。もっと英語の勉強をしていれば良かったと何度も思いました。けれども、そのたびに辞書を引いて単語を調べて理解できるように頑張りました。

日本との文化の違いはとても多く、食事をする時に「いただきます」を言わなかったり、「お腹がすいたら冷蔵庫を開けて好きなように食べて」と言われた時はとても驚きました。そしてもう一つカナダで驚いたのは、男性はほとんどお風呂に入らずシャワーを浴びるだけが多いと話を聞いた時でした。

今回、この１カ月半の留学で学んだ多くのことを将来に生かしていきたいと思います。そして、このような一生に一回経験できるかどうかのとても貴重な機会を与えていただいたことに心から感謝しています。

# 拓殖大学北海道短期大学留学生との交流

拓殖大学北海道短期大学では、平成 19 年４月から中国人 13 名、モンゴル人１名の留学生を受入れています。留学生のみなさんは深川キャンパスに２年、東京キャンパスに２年、合わせて４年間日本に滞在し、勉学に励むことになります。

深川国際交流協会では、留学生のみなさんに一日も早く深川に慣れてもらえるよう「インターナショナルデー」や「親睦の集い」、「国際理解フォーラム」に参加していただき、協会員や中学生・高校生など多くの市民と交流を深めていただきました。

２名の留学生の方に深川（日本）での体験談を述べていただきましたので紹介いたします。

## 深川体験 10 カ月

拓殖大学北海道短期大学１年　趙（ちょう）　金波（きんぱ）（中国出身）

皆さん、こんにちは。私は中国の黒龍江省から来た、趙 金波（ちょう きんぱ）と申します。どうぞよろしくお願いします。

日本に来る前に日本は礼儀正しい国だと聞いていました。日本人は何でもまじめにやります。そして、日本人は親切です。また、食べ物では、日本人は生ものを食べると聞きました。（例えば：寿司）日本人は刺身を食べます。でも、中国は魚を食べますけど、魚を炒めます。

そして、日本に着いてから本当にそうだと分かりました。言葉についてですが、日本の朝、昼、夜のあいさつの言葉が違います。しかし、私の国ではすべて一つの単語で”好”と言います。また、日本に来て分かったことは、食べ物は計って料理するということです。私は料理を作るときにどのぐらいの分量にするか、計らないです。（例えば：塩）

私たちは、市民の皆様から、電化製品（冷蔵庫、テレビ）などを貸していただきました。本当にありがとうございました。

また、日本の家の壁はたくさんの木材を利用しています。しかし，中国の家は煉瓦、セメント、鉄筋などで作っています。

深川での体験の一つですが、私は自分で”しゃんしゃん祭り”に参加しました。踊りを勉強して、街で踊って疲れたけど本当に楽しかったです。この体験で両国の文化、習慣などの違いを感じました。

中国の私の住んでいる黒龍江省は、深川より雪が少ないです。そして、ここにきて知ったことは、日本の天気の変化が激しいことです。それから、日本は中国よりずっと物価が高く、留学生のとっては、生活をする上では厳しいです。

私たちは昨年の４月４日に日本に着きました。まだ、私たちは日本語が上手じゃありません。しかし、私たちは一生懸命勉強しています。これからもよろしくお願いします。

## 日本、食べ物、そして言葉

拓殖大学北海道短期大学１年　モンゴル出身

日本に来て３年半ぐらい経ちました。月日が経つに連れて違和感が徐々に減ってきました。そこで、初心に帰り、日本とモンゴルの文化の違いについて述べることにします。

まず、食生活について述べます。日本の赤飯に匹敵するのが、モンゴルではレーズン入りの白いご飯です。この話を聞いた友達がすごく驚いていたけど、私の母国では普通です。（笑）日本の料理で肉に砂糖を入れるのを知って、私はとてもびっくりしました。そのような料理を初めて食べてみたけれど、意外と美味しかったです。モンゴル人はミルクティーに塩を入れて飲む習慣があり

ます。地方によって、塩の量は異なります。しかし、モンゴル人が皆ミルクティーに塩を入れているとは限らないです。
　次に、両国の言語について述べることにします。モンゴルではキリル文字を使うため、漢字を覚え始めた時に少し困りました。そして、漢字一文字で言葉として成立し、それぞれ意味をもっており面白いと思いました。モンゴルでは一文字単語がないため、日本語はとても興味深いものです。日本語との共通点は、英語とは違って、言葉の並べ方が非常に似ていることです。そのため、私たちにとって、日本語はとてもしゃべり易い言語だと思います。
　最後に、日本に来てから、数多くの人々に支えられて、今日の私がいます。心から感謝しております。

## 国際理解フォーラム開催

深川国際交流協会　海外派遣交流副部会長　上垣　由紀子

　今年の青少年カナダ交流訪問団の報告会は昨年度に引き続き、社会教育活性化推進委員会が主催した「国際理解フォーラム」の中で行われました。
　第一部に青少年カナダ交流訪問団の報告会、第二部に小瀧会長が進行役となって、拓大で勉強中の中国・モンゴルからの留学生とのディスカッション、そしてティータイムでは、中国楽器の二胡の美しい演奏を聴きながら中国のお茶とお菓子をごちそうになりました。
　青少年カナダ交流訪問団は、16 日間の日程でカナダ・アボツフォードでホームステイをし、研修や交流を深め、多くの楽しい思い出を作って帰国しましたが、その後、引率の川原みゆきさんがオーストラリアへ留学したことから団員の中学生だけでのぞんだ報告会となりました。
　今回の報告会の見どころは、アボツフォードでの英語の先生「Mr.J」が、毎日の団員の授業や活動をカメラにおさめ、スライドショーとしてまとめてプレゼントしてくれたCD を、研修日記として紹介したことでした。
　スライドショーには、団員の皆の日を追っての場面場面が、テンポ良く生き生きと写し出されましたが、一人ひとりがその説明文を作っていく作業が、予想以上に難しいものでした。報告会までの限られた時間の中で、団員たちがお互い足りないところを補い合い、苦心しながらカナダで養った見事なチームワークの良さで立派に完成させました。

　スライドショーでの報告の後、一人ひとりが感想を発表し、最後は団旗に込めた「Enjoy anytime」（どんな時も楽しんで）という言葉への思いと、サポートしていただいた皆様にお礼を述べ終了しました。
　報告会の初めに紹介された、川原みゆきさんから団員に贈られたメッセージに「カナダで体験した楽しいことばかりではなく、辛かったこと、戸惑いや驚きも全てのことを大切にしてください。」という言葉がありましたが、本当にその通りだと思います。
　「国際理解」とは、各々の国の言葉や文化等の違いを認め、尊重し合い、共に生きるために知恵を出し合うことから成り立つものだと思います。それは、戸惑いや驚きをどう受け止め、どう行動すればより良い方へ向かうのかを考えるところからスタートするのではないでしょうか。
　青少年カナダ交流訪問団報告会、そして若い中国・モンゴルからの留学生のディスカッションを聞いて、私たちも何ができるのか、深川も国際社会であることを感じたフォーラムでした。

⬆ 深川国際交流協会親睦の集い

⬆ 高校生の交換留学生制度事業 事前研修会

⬆ 国際理解フォーラム 青少年カナダ交流訪問団報告会

⬆ 国際理解フォーラム パネルディスカッション

## 募集しています！

☺「ホストファミリー」 …… 現在 42 家族の方が登録されています。

☺「通訳・翻訳ボランティア」 … 現在 18 名の方が登録されています。

☺「深川国際交流協会会員」 …… 現在、一般会員 93 名、学生会員 21 名、賛助会員 39 団体です。

【問合先】深川国際交流協会事務局（深川市企画課） ☎26-2215

http://fukakoku.net/

【広報誌発行責任者】藤岡 順子（広報部会部会長）
【広報誌編集担当】深川国際交流協会 広報部会
編 集 長：藤岡 順子 副編集長：岡 隆史（広報部会副部会長）
編集委員：池田 敏江・稲田 伸人・今井 敏雄・小橋 厚子・高橋 昇・田中 由美子
寺下 良一・南部 雄二・橋向 利勝・橋本 信・三ツ井 隆博・山田 弥佳・渡辺 英雄